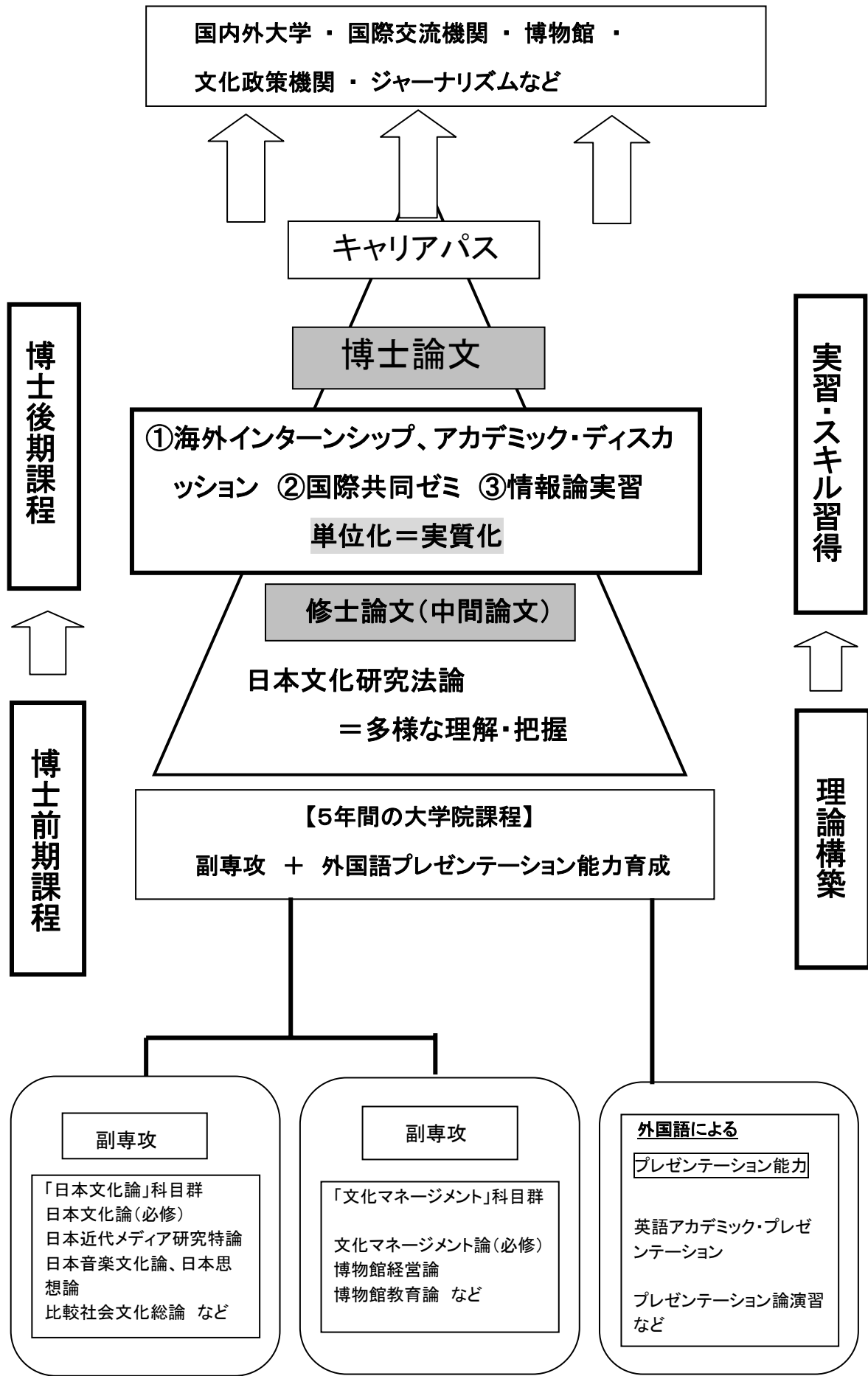


教育プログラムの概要及び採択理由

機 関 名	お茶の水女子大学	申請分野(系)	人社系
教育プログラムの名称	日本文化研究の国際的情報伝達スキルの育成		
主たる研究科・専攻名	人間文化創成科学研究科比較社会文化学専攻		
(他の大学と共同申請する場合の大学名、研究科専攻名)			
取 組 実 施 担 当 者	(代表者) 近藤 譲		
<p>[教育プログラムの概要]</p> <p>目的: 本プログラムは、人文社会系で<u>高度な研究資質を持つ大学院生の国際的コミュニケーション能力を練磨することによって、日本の文化(及び、それを対象とする研究成果)を効果的に発信しつつ、グローバル化する世界の多様な分野でリーダーシップを発揮し得る優れた人材の養成</u>を目指す。この目的を達成するために、以下の3点を、本教育プログラムの柱とする。</p> <p>教育プログラムの3つの柱:</p> <p>(1) 日本文化についての理解: 大学院の本専攻では、人文学系諸分野の高度な専門教育プログラムを基本にしているが、それに加えて、博士前期課程に<u>副専攻「日本文化論」</u>を設ける。これは、大学院修了後に国際的な場で社会貢献を行う人材(留学生を含む)に、海外では屡々極度に歪曲されて伝えられることのある日本文化について、<u>日本文化理解の国際標準としても機能し得る深い理解と批判的思考</u>を齎すための教育プログラムである。この副専攻は、思想、歴史、社会、文学、言語、生活文化、服飾、芸術(美術、音楽、舞踊)を含めて、日本の過去と現在のハイ・カルチャー及びサブ・カルチャーの広範な領域の対象を、比較論的な観点から学際的且つ総合的に論じる諸科目で構成される。</p> <p>(2) 情報伝達スキルの練磨: 博士前期課程・後期課程を通じて、学生が、高度に専門的な情報をも含めた国際的なコミュニケーション能力を高め、電子メディア、プレゼンテーション等を通じて自在に情報発信を行う能力を習得するための実習を、体系的な教育プログラムとして整える。<u>外国語によるプレゼンテーション能力</u>の練磨のみならず、研究成果を<u>電子メディアによって国際世界に発信するための実習</u>(本学に蓄積されている国際日本学の研究成果を用いた「日本文化研究コーパス」(仮称)作成実習)、等を行う。</p> <p>(3) 国際的な現場での教育: 以下の3つの国際的な場での実習(いずれも、本大学院の科目として実質化)を、博士後期課程の教育プログラムとして体系的に整え、学生は、そこでの国際的経験を踏まえて、博士学位申請論文を執筆する。①学生に、<u>海外の提携大学で実際に教授を行う機会を与える(海外インターンシップ)</u>。②海外の提携大学における当該分野の研究者との比較的長期間に亙る継続的な<u>討論(意見交換)の実習(アカデミック・ディスカッション)</u>。③本専攻の国際日本学分野で既に大きな実績と成果をあげてきた海外提携大学との<u>国際共同ゼミ、国際シンポジウム</u>での実習を行う。</p>			

お茶の水女子大学: 日本文化研究の国際的情報伝達スキルの育成

履修プロセスの概念図(履修指導及び研究指導のプロセスについて全体像と特徴がわかるように図示してください。)



<採択理由>

大学院教育の実質化の面では、「魅力ある大学院教育」イニシアティブによる支援を受けた実践を踏まえて、そこで明らかになった課題解決を目指して構想されたものとして評価できる。海外で日本研究をしている人からの発信を取り込み、また日本学を発信するための若手研究者を育成しようという意欲を見ることができ

る。具体的なプログラムについては、女性の研究者が国際的に活動できるように配慮している点が特徴的である。そのための研究の支援体制が構築され、研究のステップが明示されていることが評価される。ただし、この成果を十分あげるためには、海外インターンシップでの事前の準備など、計画の具体化と更なる検討が望まれる。